



いちはし しゅん すい 市橋 俊水

真言宗豊山派僧侶。東京都生まれ。一児の母。都内の『よみうりカルチャー』（読売・日本テレビ文化センター）で仏教関連の講座を3つ担当。元グラフィックデザイナー。

と言うと女性が僧侶なだけで、妙に可哀想な存在として扱われたりすることもあります。「無理しているんでしょう？」とか「すごい覚悟ですね」とか……。「尼僧さんの権利を！」みたいな運動も必要を感じないです。本当なら、女性だけで集まるこんな対談も無いのがよいのだけれど。

市橋▼（女性が僧侶であることに）何も関知しないでほっといてくれるのが一番ですよ。豊山派に尼僧団がないのも、自分達を「尼僧」という言葉で括ると自らを差別することにつながるからです。

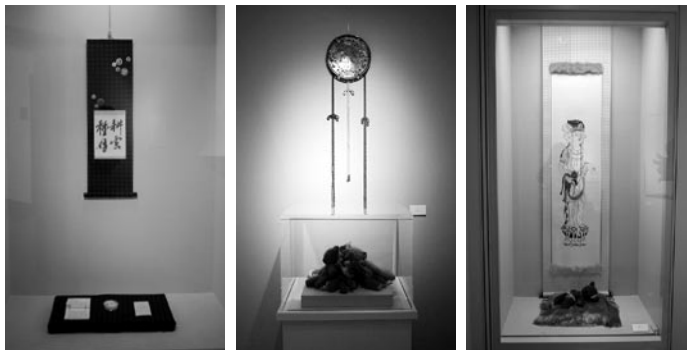
飯島▼ただ黙っていると「女性の僧侶はいない」なんてことにされかねない地域や場面もあるから、あえて私は「あまみず」なんて名乗って活動しているのだけれど。

高丘▼本当は、何年も顔を合わせているうちに「あの和尚さんは女の人だったんだ」ってなんとなく知られるのが理想的だけれど。僧形をパッと見ただけでは分からないのに、女性だと知ったとたん態度を変える人もいるし、男女平等の条件を男性側に引き寄せる傾向も強いですね。結婚をしないとか肉食をしないとか、同じ僧侶でも、女性が多いほど強く聖性を要求されることも多いように思います。少しずつでも区分けが曖昧になってくれば、最終的には、「女？だから何？」なんて時代が……当分こないかな。

市橋▼私の子どもも女の子です。私の周りでも「跡継ぎが出来てよかった」と言う人と、「次は男の子を産んで」と言う人と半々ですね。どちらにしても、僧侶になるかならないかなんて、



江戸六地藏の一つである真性寺(東京都豊島区巣鴨 真言宗豊山派)でのお話にて(市橋)



【耕雲種月】

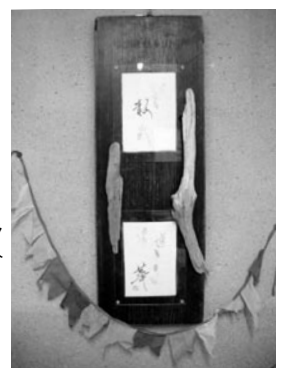
【くまちゃん×月】

【夢観音】



【月桂又達円】(右)と【手】

上の3作品と左の作品は、駒澤大学禅文化歴史博物館で「つきみ展」というグループ展を開催したときの三須の出品作。



三須の作品「散華」東京都世田谷区経堂のギャラリー「ガラージュ・ペー」の新人展に出品した。



みす れい ほう 三須 励法

東京都生まれ。2000年に得度。駒沢学園女子中学校から駒沢学園女子高等学校へと進み、駒澤大学仏教学部禅学科卒。2006年から作家活動を開始。アートを通して親しみやすくポップな仏教を目指し、仏教の入り口を広げようとしている。

それぞれの物語を
これからも

三須▼お寺の世界って、一般会ではとくに改善に向かっていないことが、今やっとな問題とし